# 日本における個

－現代日本の非婚の母の場合－

パリ・ディドロ大学教員
フランス国立東洋言語文化研究所 日本研究センター博士課程
猿ヶ澤 かなえ

日本、西洋を問わず「日本人は個人性に欠ける」と言われる。しかしながら、19 世紀後半から現在まで、知識人の間でも一般的な考え方においても何度も繰り返されているこの認識が誤っていることを、エマニュエル・ロズランの『「日本に個は存在しない」ステレオタイプの系譜』は証明する [1]。本発表はこの論文に着想を得、現代日本の非婚の母を例に挙げ、社会学的アプローチで「日本に個が存在する」ことの証明を試みる。

ここでは、法律婚をせずに子どもを産み母となった女性のことを、理由や経緯を問わず、事実婚の母もシングルマザーも含み、「非婚の母」と呼ぶ。「未婚の母」という言葉もあるが「まだ結婚していない」という意味が含まれるため、単に婚姻をしていないという意味で「非婚」という言葉を使いたい。

日本における非婚の母の人口は少ない。2014 年、婚外子率はたった 2.3%である [2]。しかし、婚外子の相続を婚内子のそれの二分の一とする法律が 2013 年 9 月に違憲判決を受け 12 月に廃止されたこともあり、婚外出生は、現在、社会から、また、社会学、法学、ジェンダースタディーズなどの研究者からも注目されている。

しかしながら、非婚の母自体を対象とする研究は少ない。結婚をせずに母になることは、「かわいそう」だとか「不幸」だと思われがちだが、本発表では、女性が非婚の母になる際の経緯や理由に注目し、彼女たちの選択について考察し、そこに一括りにはできない「個」を確認したい。

---

[1] Lozerand, Emmanuel. 2015. “Il n’y a pas d’individu au Japon : critique et archéologie d’un stéréotype”, *In* Christian Galan et Jean-Pierre Giraud (eds.), *Individu-s et démocratie au Japon*, Toulouse, Presses universitaires du Midi, 19-71.

[2] 厚生労働省「女性の年齢階級（5 歳区分）別非嫡出子出生数及び割合の推移（1947, 1950-2014）」http://winet.nwec.jp/cgi-bin/toukei/load/bin/tk_sql.cgi?hno=230&syocho=52&rfrom=21&rto=40&fopt=2（2015 年 11 月 12 日アクセス）